

TOKYO UNIVERSITY OF SCIENCE

ARCHITECTURE

東京理科大学 理工学部 建築学科

INTERIORS

FACULTY OF SCIENCE AND TECHNOLOGY

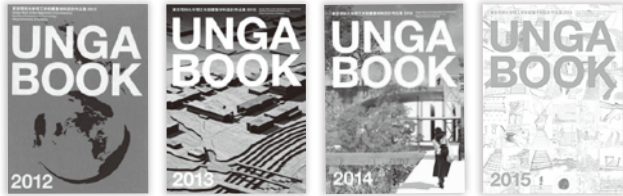
TEXTURE

本学科の特徴

DEPARTMENT OF ARCHITECTURE

1 学生の建築作品をレビューする冊子 UNGA BOOK 発刊

建築学科では学生の建築作品を掲載したUNGA BOOKを毎年発刊しています。野田オープンキャンパスでも配布していますので、ぜひ手にとって見てください。



2 海外大学との交換留学・学術交流の充実

国際的な活動展開に向け、オールボー大学(デンマーク)、リスボン工科大学(ポルトガル)、国立トゥールーズ建築学校(フランス)などと交換留学を含む学術交流を行っています。



3 6年制教育の強化

建築学科学生の60%以上が大学院に進学する現状を踏まえ、「4年+2年」教育から「3年+3年」教育にシフトします。スタジオ制や横断型コースを通じ、より高度な専門性を身につけられるようにします。

建築デザイン

高度な6年制教育の導入を念頭に、設計のプロによる実務、国際性に対応するスタジオ制を導入し、きめ細かな個別指導を行っています。



建築・都市防災

火災・地震等の災害に対する建築・都市防災の研究拠点となっております。理工学研究科の横断型コース「防災リスク管理」に多くの教員が参加しています。



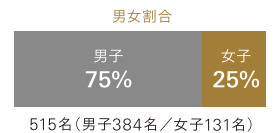
4 カリキュラム

1年次	建築共通	■建築学入門/数学I・II/物理学A I・II/線形代数及び幾何学I・II ◆建築から考えるアジア共同体/コンピュータ基礎/化学I・II 物理学A演習I・II/線形代数幾何学演習I・II
	計画・設計系	■近現代建築史/建築計画1 ◆空間デザイン及び演習1・2/西洋建築史
	構造系	■建築構造力学1 ◆建築構造力学演習1
2年次	材料・防災系	■建築材料1/建築防災概論 ◆建築材料2
	建築共通	■建築法規
	計画・設計系	■建築計画2/都市デザイン/設計製図1・2 ◆日本建築史/都市計画
3年次	構造系	■構造設計法概論/建築構造力学2 ◆建築構造力学演習2/建築構造解析/建築荷重論
	環境系	■建築環境工学1/建築設備 ◆建築環境工学2/建築環境工学演習/建築音響学
	材料・防災系	■建築施工1 ◆建築防災設計
4年次	建築共通	◆建築測量・講義と実技I・II
	計画・設計系	■設計製図3 ●設計演習
	構造系	◆構法計画/CAD演習/都市解析基礎/ランドスケープ/デジタルデザイン演習
5年次	環境系	■鉄骨構造/鉄筋コンクリート構造 ●構造実験 ◆地盤工学/建築振動学/構造設計法演習
	材料・防災系	■建築環境実験1 ●建築環境実験2 ◆建築光環境
	環境系	■建築材料実験 ●材料防災実験 ◆建築施工2/火災安全工学
6年次	環境系	■卒業研究
	計画・設計系	●建築設計/都市設計
	環境系	●構造設計製図

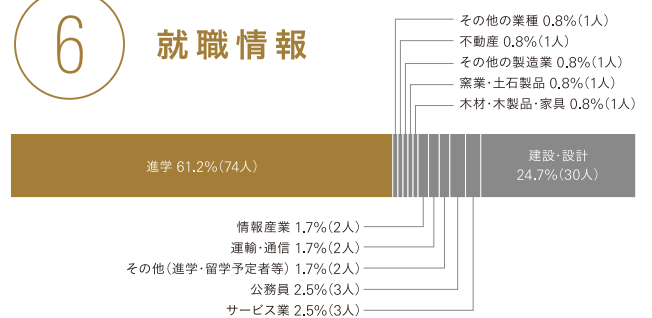
取得可能な受験資格

1級建築士/2級建築士

5 在学生情報



6 就職情報



主な就職先

鹿島建設、清水建設、大成建設、竹中工務店、大林組、大和ハウス工業、熊谷組、戸田建設、飛鳥建設、西松建設、安藤・間、長谷工コーポレーション、三井住友建設、新日鐵住金、フジタ、日建設計、日本設計、山下設計、NTTファシリティーズ、佐藤総合計画、オーヴ・アラップ・アンド・パートナーズ・ジャパン・リミテッド、新居千秋都市建築設計、オウグー一級建築事務所、織本構造設計、JR東日本、国土交通省北海道開発局、消防庁、香川県職員、神奈川県職員、徳島県職員、東京都豊島区職員、富山県富山市職員、積水ハウス、星野リゾート、都市再生機構、丹舟社、森トラスト、KDDI、三井ホーム、西武鉄道

入試情報

募集人員 120名
取得学位 学士(工学)
お問合せ 東京理科大学理工学部建築学科事務室
〒278-8510 千葉県野田市山崎2641

TEL 04-7122-9417

FAX 04-7125-7533

<http://www.ar.noda.tus.ac.jp>



本学科では地域固有の歴史文化を尊重しながら、地球環境問題など地球規模で発生する課題を解き、あるべき生活環境をつくり上げるための専門的な知識と技術を身に付け、人々に夢を与え得る構想力を備えた人材を育成します。2017年に建築学科は創設50周年を迎えます。これからの50年を見据え、より高度な専門教育を与えるべく、OB/OGとの連携を通じ社会との繋がりをより強化し、実務的な能力、国際レベルの技術を高める教育を進めてまいります。

建築計画

Architectural Planning

建築デザインの理論と実践

岩岡研究室 Iwaoka Lab

すべての建物は「寸法」によってその形や空間が決定されています。建物や空間の寸法(サイズ)は、人々の思考や行動に対してさまざまな影響を与えています。本研究室では、特に建物のスケール(大きさ)やモジュール(単位空間)に関する調査をベースとして、建築物、外部空間、街並、集落、都市空間などに見られるデザインの解釈を試みています。そうした調査研究と並行して、住宅を中心とした実際の設計活動を展開し、新しい建築空間の創造に挑戦しています。



人の行動から観察される建築空間のささやき

垣野研究室 Kakino Lab

建築計画は、人が空間をどう使うかを研究し、その結果を設計に活かしていくことを特徴とします。人は建築の「ささやき」に感応しながら生きています。「静かで小さな部屋にいと落ち着く」というのも、感応の一種です。その「ささやき」は人の生活を安定させるとも根源的なことだけれど、あまりに当たり前で普段は認識されないこともあります。だから人の行動を調べ観察するなかで、建築が発している普段気づかない「ささやき」を顕在化させたいと思います。そして、そこから生まれる設計理論によって新たな建築を提案していきます。



建築史

Architectural History

史的連続性のなかで建築を捉える

山名研究室 Yamana Lab

今日の建築デザインを「時間」という連続性の中で捉え、近現代建築、近代計画都市を対象に調査、研究を行っています。それらの文化遺産としての側面の重要性を認識し、保存、活用継承していく方策を立てることを進めています。ユネスコをはじめとする国際機関、ICOMOS(本部・パリ)やdocomomo(本部・リスボン)と連携し、文化遺産保護の原理、方法論、科学技術の応用の研究をしています。文化庁国立近現代建築資料館と連携した近現代建築資料のアーカイブズ化も主要なテーマです。国際的ネットワークの中で調査・研究活動を行い、広い視野の中で、それぞれの対象の固有の「オーセンシティ」の追求を行い、今日の社会にも開かれた文化的価値を持ち得る「リビング・ヘリテージ」を目指しています。



建築設計

Architectural Design

三度の飯より、設計が好き!

安原研究室 Yasuhara Lab

建築設計の役割は、単なる形態のデザインではありません。社会の諸制度、都市空間の仕組み、構造・環境技術などとの関わり合いの中から、これからの社会の変化に対応し、あるいは変化を促進していくような新しい建築空間を構想・提案していくことが求められています。本研究室では、現実の設計過程や地域社会などと関わりながら、可能な限り具体的にそうした探求を進めています。



都市計画

Urban Planning

都市への好奇心と創造性を培う

伊藤研究室 Ito Lab

世界の都市人口は全人口の半数に達し、今も増え続けています。一方、先進国では縮小する都市が増えています。人々の幸福とサステナブルな社会の実現のために、都市がうまく機能していくようデザインする必要があります。本研究室は、調査・分析を通して都市の性質を捉え、デザインを通して都市の在り方を提案します。対象は、都市圏のような広域スケールからストリートファニチャーのような身近なスケールまで、インフラ整備のようなハード面から都市ブランディング戦略のようなソフト面まで、広範にわたります。



光・視環境

Lighting Environments

照明よ、大志を抱け

吉澤研究室 Yoshizawa Lab

建築と光は不可分の関係で、かつては自然光、20世紀に入るとそれに加えて人工照明の扱いが重要なテーマとなってきました。光の量と質をコントロールしていく上では、審美性に加えて視認性・省エネルギー性などさまざまな側面を考慮する必要があります。本研究室では、照明シミュレーションによって光の挙動を求め、その結果から建築空間の見えを予測する手法を、実空間の調査・模型実験などを通して導き出すことを、研究の主な目的としています。



『理工系の基礎 建築学』と講義「建築学入門」

世界遺産に登録された「国立西洋美術館」を題材としたテキストを利用し、1年次に全教員+OB/OGによるオムニバス講座「建築学入門」を開講し、企画から完成・運用に至る建築の流れを習得します。

建築学編集委員会・編 丸善出版・発行 本体2,800円+税



建築構造

Building Structures

構造設計者を育成するためには…

北村研究室 Kitamura Lab

安心で安全な建物を実現するには、建築構造物の性能設計法の研究・開発が重要になります。本研究室では、さまざまな学協会・大学・企業・研究機関と連携して研究・開発を行っています。具体的には大地震に対する安心安全を目指す「性能設計法」の確立、高い耐震性能を実現する免震・制震構造の「エネルギーの釣合に基づく応答評価法」、長周期地震動や直下型地震などに対して長寿命建築物を目指す「建築物のライフサイクル累計損傷評価設計法」、建物の地震・長期微動観測に基づく「構造ヘルスマonitoring」の研究・開発などです。



都市を守る耐震設計法の開発

衣笠研究室 Kinugasa Lab

首都圏直下型地震による莫大な経済損失の発生とそれにより引き起こされる深刻な環境破壊が懸念されています。建築物の耐震性能を、耐震工学だけでなく経済学の面から適切に評価し、必要な性能を確実に確保できる設計法の開発が求められています。本研究室では、次の二つの課題、「大都市東京はどの程度の地震に耐えられるのか?」、「地震に強い都市はどうすれば実現できるか?」を掲げ、耐震工学および経済学の両面から、都市経済を支える建築物の最適設計法についての研究を行っています。



地震工学

Earthquake Engineering

地震に屈しない、明日へ

永野研究室 Nagano Lab

2011年東日本大震災では、巨大規模の断層運動に起因して、津波、長周期地震動、液状化等による建物被害が発生しました。2016年熊本地震では都市直下で発生する内陸地殻内地震により、多数の木造被害が発生しました。大地震時の建物被害の発生パターンは、さまざまな要因が複雑に絡み合います。本研究室では、震源から基礎、建物応答、室内被害、人的被害までの動的プロセスを総合的に評価し、将来の地震被害軽減に向けた研究を進めています。



建築防災

Building Disaster Prevention

未来の安全を設計する

大宮研究室 Ohmiya Lab

阪神淡路大震災や東日本大震災では、多くの大規模な火災が発生しました。また近年、建築物が大規模、大深度化、超高層化し、新たな空間の創出に伴う火災の危険性が危惧されています。本研究室では、このような災害による被害の防止、低減のために研究を進めています。例えば、コンピュータによる火災現象や人間挙動の再現・予測技術の開発、環境心理的な視点からの異変感知特性の検証、統計資料や実地調査資料から被害低減への計画策定、実務的な防災設計法の体系化などを進めています。



建築環境工学

Building Environmental Engineering

建築環境から未来を見つめる

井上研究室 Inoue Lab

地球・都市環境の枠の中で、エネルギー・資源・自然環境をいかに効率的に活用し快適・健康な空間・環境を創るかという研究を進めています。対象は、建築外皮や住宅の一室から建築全体、さらに都市のスケールにまで及び、実験・シミュレーション・調査等の手法を駆使した先進的研究を行っています。学会、他研究機関、建築・設備業界、国際機関、行政等との交流を通して、研究成果を社会に還元・貢献しており、研究室には常に刺激と活気が溢れています。



建築材料

Building Materials

建築材料学的視点で建築を見よう!

兼松研究室 Kanematsu Lab

日本の高度成長の原動力となった建築物は、現在その多くが維持更新の時期を迎えつつあり、いかにそれらをメンテナンスし耐久性を高め、かつ環境に配慮しながら持続再生していくかが大きな課題となっています。本研究室では、建築物の耐久性を精緻に予測するシミュレーション技術や、その維持管理戦略に関する研究に加え、21世紀の大きなテーマである建築物の環境側面に関する問題について、建築材料学的視点から研究しています。建築材料学は社会のさまざまな分野に通ずる守備範囲の広い学問です。

